鹿児島市及び連携中枢都市圏３市のNPO（市民活動団体）のご紹介

ながやま けいこ

NPO法人地域サポートよしのねぎぼうず（理事長　永山 恵子）

きっかけは新たな地域の情報を活字に綴り、紙面をつくる楽しさを知ったこと

１４年間の転勤生活後、ご主人の故郷が吉野であることから吉野での新たな生活が始まった。平成４年に小学校のPTAの広報部長を務めることになった永山さんは、活字を綴ることの楽しさに目覚める。その年広報部の研修に行った際「地域のことを紙面に載せていくといいですよ」とアドバイスを受けた。その当時は、「吉野って何にもないところ！」という意識の中で、吉野中学校前で陶芸活動をする外国人の方を取材して掲載した。
「それまでの新聞を見やすくしようと、字の大きさや段組みなど校長先生の協力もいただいて変えました。」その頃から活字を綴る楽しさ、紙面をつくる楽しさにはまっていったのかもと話す。その時の部員は、協力体制も十分にあり、PTA新聞コンクールで入選した。

そして、翌年、骨を埋めるであろうこの吉野をもっと知りたいと地域情報誌の発行を思いつく。そこで生まれたのが『もっと知りたいマイタウンよしの』。第1号は平成5年8月1日発刊。忘れもしない、８・６水害が起こった年に創刊したのだ。創刊号はB4サイズの両面2ページ。次号は4ページとなり、内容はどんどん膨らみ、2か月に1回のペースで発行を続け、Ａ4、12頁まで紙面は増え、吉野のことを綴り続け、約10年間発行した。永山さんは、自分の興味や関心のあることをテーマに取材を続け、どんどん地域にのめり込んでいったと楽しそうに話す。
平成8年には南日本新聞社のミニかわらばんコンクールで最優秀賞を受賞、「主婦の視点でつくられているミニコミ誌（地域情報誌）」として評価された。

人が好き。人と人をつなぐことをやりたい。

新聞づくりは協賛広告をいただきながら続けてきたが、それらはあくまで運営費。人件費はほとんどない中で40代の約10年間を走り続けてきた永山さん。新聞づくりを通して関わる人たちと良い関係でいたいと思うことが自分自身のなかでも負担になる場面もあったという。

とはいえ、この10年間で見えてきた課題も多くあった。「地域がもっとこうなればいいのに！と思う自分がさらに出てきました。情報誌はあくまで間接的な部分で、読んだ人たちがどこでどのようにつながっていくのかは見えないので、次は人と人とを直接つなぐことをやりたいと思い始めました。」
永山さんの次のステップは、地域のコミュニティを活性化すること。「地域コミュニティのことは町内会長がやることだよと言う方もいましたが、吉野全体をまわり続けてきた私としてはそれぞれが一生懸命にやっているんだけど、吉野全体をどうしていこうかというミッションがまだ何となくつかめない感じがしていました。」
平成14年に市の審議会の公募委員として参加した会議で、永山さんは自分の思っていることを言葉にできないことにジレンマを感じ始めた。「もっと勉強しないと。」そこから平成15年、東京で開催されていた全国地域リーダー養成講座へ参加することを決め、毎月のように東京へ足を運んだ。名だたる講師陣の話を聴き、課題について考える機会は永山さんの背中を押してくれた。そして終了レポートで書いたフレーズ、それは“地域を総合的にサポートしたい”というものだった。

その時々のニーズに応えてきた歴史がある

そこから約2年後の平成17年４月にNPO法人地域サポートよしのねぎぼうずを立ち上げる。2年間は自宅を事務所として運営し、介護保険対象外の生活支援等を実施してきた。そこから「地域に児童クラブがほしい」という声をきっかけに、子ども達の居場所づくりにと「よしのっ子ジュニアクラブ」を始める。それが今の活動拠点をつくるきっかけとなった。手作りのおやつや長期休暇中の子どもたちにお弁当を出せるようキッチンもつくった。「ここでランチをやりたい」という声にはフリースペースを提供した。それらを通してここに集まるお母さんたちがこのままでいるのはもったいない…そう思い始めた永山さんは若いお母さんたちが自主運営するクラブ「よしのっち‘マミークラブ楽々」を立ち上げる。

これまでの活動を振り返ると、その時々の地域のニーズに応えてきた歴史といえるようだ。「NPOのニーズは狭間でしかなく、人材を保障していくことも本当に難しい。しかし、活動そのものが地域の文化だと思うとつないでいきたい、つないでいく体制をつくっていかないといけないと感じています。やはりそこには対価・稼ぐものコミュニティビジネスがあって、動く人が保障される世界でないといけないと感じています。」
永山さんの活動のスパンは”10年”、 新聞づくりもちょうど10年だった。法人を立ち上げて10年経ったころ、やめられない自分がいることに気づく。「吉野って何もない、というところから宝物がたくさんあることに気付きました。ベッドタウンとしてだけではなく、歴史があって今のまちがあるということを形にして残したい、新しく移り住んできた人たちが吉野をわがまちと思ってもらいたい。」その思いは、現在の取り組みの一つである吉野が舞台の郷土民話「大石兵六夢物語」を基盤とした地域おこし活動に転化している。
「長く続けるとプロになると云われますが、自分の中ではいつも初々しい気持ちでいたい。むしろプロになってはいけないなと。仕事に忠実に向き合い周囲の信頼を得ることで、自分の居場所ができ、地域をしっかりと見据えた中の構造も見えてくる。思い描いたことが形になるには5年～10年かかるけど、みんながいろんな夢を語り、形にしていくことで、宝物がいっぱい増える吉野になっていけたらと思っています。」

NPO法人よしのねぎぼうず　団体概要

主な活動内容

高齢者や子育て在宅支援、社会教育のほか、地域の情報の収集、発信、芸術や文化意識の高揚、地域の安全、地域福祉など、現代の地域住民のニーズに沿った活動を展開し、コミュニケーションを図りながら、発展的に「ひと」が豊かに輝くまちづくりの推進に寄与し、地域貢献を行う。

お問い合わせ

●団体名：NPO法人地域サポートよしのねぎぼうず　●理事長：永山　恵子
●Mail：negibouzu@tulip.ocn.ne.jp　●ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://yoshinegi.blogspot.com/